



美々津中学校便り

2月号

文責：鈴木利明（校長）

北京オリンピックが終了し、様々な競技で、元気や勇気をもらい、感動することができました。オリンピックという舞台に上がるだけでも、私には想像できない程の準備が必要だと思っています。さらに、たくさんの方の応援やサポートをしてもらえることも大切なことだと感じています。そして、競技本番を迎えたときの緊張感はピークに達するのだと思います。そんな中でも、緊張感を保ちながら、少しでも心をリラックスするために、選手それぞれが考えたことを見えないところで実行しているのだと思います。2000年のシドニー五輪で女子マラソンの金メダリスト高橋尚子さんが、競技の前に何十回と歌手 hitomi さんの「LOVE2000」を聴いて走ったというのが話題になりました。そして、その時高橋さんはこんな事を書いていました。

「今まで、どれくらい走ってきたことだろう。でも、残すは、たったの42.195km。」

高橋さんのマラソンにかける想いのこもった言葉です。そして、殆どの選手が、これまでの準備で「苦しめたことの方が多い」と言っています。見えない努力の方がが多いからです。今回の北京オリンピックに出場したすべての選手も、高橋尚子さんと同じ想いで、今まで支えてもらった方々への感謝の気持ちを抱いて、競技にのぞんだことでしょう。オリンピックがゴール地点ではない選手もたくさんいると思いますが、大会にかける想いは、私には想像もできません。どんなに完璧と思える準備をしても、何が起こるか分からぬのが勝負の世界です。だからこそ、オリンピックでメダルを取れた時の喜びは、言葉では表すことができないかもしれません。

学校生活でも高校入試や部活動の最後の大会を考えると、同じようなことが言えるのではないか。目標にしている学校への進学や部活動の大会での優勝や県大会出場などが、大きさは違っても、オリンピックと同じような意味があるのだと思います。

「今まで、どれくらい勉強してきただろう。今まで、どれくらい練習してきただろう。」

小さなコツコツとした積み重ねが大きくなるように、日頃からの地道な生活習慣は、大舞台の時に形となって必ず現れます。だから、勝負の時には自信をもって、自分が頂点に立っている姿をスクリーンに描きながら、自分の心に語りかけてください。

「大丈夫、絶対大丈夫。今まで全力で悔いのないようにやって来たんだから、必ずうまくいく」って。

あいさつ運動

（生活委員会） 2月7日～10日



生徒会の生活委員会が中心となって、朝のあいさつ運動を実施しました。朝の寒い中、生徒達は、元気に声を出していました。社会に出ても、挨拶のことは一番に言われます。特に朝の挨拶は、笑顔もセットになるといいですね。

はじめは、僕や他の委員もはずかしくて、小さな声であいさつをしていましたが、後になるとなれてきて、大きな声であいさつができる、同じように大きな声であいさつを返してくれる人も増えてきました。僕は4日間あいさつ運動をして、気付いたことがあります。それは、こちらがあいさつをした時にあいさつを返されるととても気持ちよくなるということです。小さな声でも、返してくれるととてもうれしくなります。だから、いつでも、誰に対してもできるだけ大きな声であいさつを交わせる美々津中になるといいと思います。最後に4日間一人も忘れることなくあいさつ運動ができた生活委員会のみなさん、ありがとうございました。そして、全校生徒のみなさんご協力ありがとうございました。あいさつ運動は終わっても、日常のあいさつは続きます、これからも気持ちのよいあいさつのあふれる美々津中にしていきましょう。～全校生活専門委員長 長埜蓮～